



生き生きとした自分を見つめるための実用生活誌

# はじまりのページ

Shukokai-Magazine The page of beginning

2023 Autumn NO.64

ダイジェスト版

特集

腫瘍の炎症化を防いで治癒へ導く

## HITV療法—— プロトコールDの 作用

第2特集

免疫療法のハブ・クリニック

『HASUMI免疫クリニック』の  
治療メニュー



HITV療法 (Human Initiated Therapeutic Vaccine) は、  
 米国法人蓮見国際研究財団理事長 蓮見賢一郎先生が開発し、  
 2005年より臨床を開始した、まったく新しいコンセプトによるがん治療法——。  
 全身療法に分類される免疫療法を、局所的に作用させることで、従来に倍する奏効率を獲得し、  
 副作用もほとんどないことから、現在までおおよそ1500人にのぼる患者様の救命に携わってきました。  
 そのHITV療法に関して、蓮見賢一郎先生より最新の知見が届きましたのでご紹介します。

## 腫瘍の炎症化を防いで治癒へ導く

# HITV療法—— プロトコールDの 作用

米国法人蓮見国際研究財団理事長 蓮見賢一郎

## 夏の行方

蓮見賢一郎 医療法人社団 珠光会 理事長

ここ数年、夏になると「猛暑日」というワードを耳にするようになりました。猛暑日とは、最高気温が35℃以上に達した日のこと——。気象庁が2007年より使用している気象用語だそうです。

太陽が痛いぐらい照り付ける真つ昼間、街中を歩いていると、ふと「昔の夏はもつと過ごしやすかったな……」という思いがよぎることがあります。虫取り網を振って駆け回り、午後の空腹は冷やしキュウリやトマトで満たし、ヒグラシの鳴き声に送られて家路につく——。そんな夏の一日は瑞々しい色彩にあふれ、今日感じられるような過酷なイメージは薄かった気がします。

肌色に関する価値観も、私が若かった頃と今とでは180度異なり、かつて健康美の象徴は小麦色の素肌でした。肌が焼けているほど健康的であり、夏休み明けの新学期早々「日焼けコンテスト」を実施する小学校もあったほどです。日焼けに対する憧れは女性も同様で、1977年に某化粧品会社が展開した「クッキーフェイス」というキャンペーンは、モデルを務めた女優の魅力も相まって大きな話題になりました。そんな「小麦色の肌＝健康」の図式が崩壊したのが、1970年代から指摘されていたオゾン層の破壊でした。オゾン層は地上から10km

50kmの成層圏にあり、紫外線から生物を守るフィルターの役割を果たしていたので、1980年代にオゾンホール(オゾン層が薄くなった部分)が観測されたことを契機に、太陽光を浴びることのリスクがクローズアップされたわけです。

実際、紫外線には人体に有害な作用が複数認められています。

急性的には肌の炎症である「日焼け」、目が強い紫外線に長時間さらされることによって起こる「紫外線角膜炎(雪目)」、免疫機能低下など。慢性的には、シミ・シワ・たるみなど肌の「光老化」、皮膚がん、白内障、結膜を障害する「翼状片」などです。

ちなみに、ICVS Tokyo Clinic V2で施術している「培養上清液療法」は、優れたスキンケア効果を有しています。人間が本来持っている機能に働きかけ、体の内側から若返らせてくれるので、副作用もほとんどありません。過酷な夏を乗り越えた素肌のメンテナンスに、最適な療法ではないでしょうか。

いずれにしろ、かつての夏が戻ることは二度とないような気がします。しかし、かき氷やスイカ、トウモロコシなど、夏の楽しみがなくなることはないでしょう。食べ物ばかりで恐縮ですが、食欲の秋ということでご容赦を……。

## CONTENTS

- 2 思いの言の葉 Vol.58  
夏の行方
- 3 腫瘍の炎症化を防いで治癒へ導く  
HITV療法——  
プロトコールDの作用
- 7 連載コミック  
第59回 ほのぼのJiJi・BaBa 松 & 梅
- 8 「培養上清液疼痛治療」+「スポーツセラピー」で  
“痛み”のない、  
動ける身体をつくる!!
- 12 免疫療法のハブ・クリニック  
『HASUMI免疫クリニック』の  
治療メニュー
- 16 珠光会通信

がんの治療における——  
局所療法(局所制御)と全身療法(全身制御)

がん治療には「局所療法(局所制御)」と「全身療法(全身制御)」という分け方があるのをご存知でしょうか。

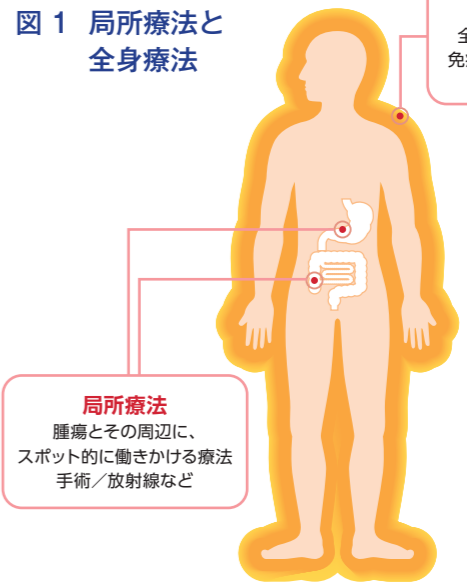
局所療法(局所制御)とは、がん(腫瘍)のできている部位と、その周辺に対して行われる治療のこと——。具体的には手術(外科治療)、放射線治療などを指します。これに対して、がんとその周辺部位だけではなく、全身に対して行われる治療を全身療法(全身制御)といいます。具体的には抗がん剤や分子標的薬などです(図1)。

がんと診断されたにもかかわらず、回復されている患者様を鑑みると、多くの場合、手術もしくは放射線治療が功を奏しています。つまり、局所療法によって治療しているケースがほとんどなのです。

一方、抗がん剤や分子標的薬などの全身療法単独で治療した患者様は、白血球などの血液がん以外の固形がんでは、ほぼ見当たりません。このことは、がんの治療において、いかに局所療法が重要かを示すものであり、全身療法は、局所療法を手助けする補助的な役割であるといっても過言ではないでしょう。

**全身療法**  
全身に働きかける療法  
免疫療法/抗がん剤など

図1 局所療法と全身療法



**局所療法**  
腫瘍とその周辺に、  
スポット的に働きかける療法  
手術/放射線など

現在、局所療法には手術や放射線治療以外にも、ラジオ波治療や凍結治療など、多様な治療法があります。そして、もともとは全身療法に分類される免疫療法を局所的に作用させることで、従来には見られない高い寛解率、及び寛解維持率を実現させた、新しいタイプの免疫療法が「HITV療法」なのです。

樹状細胞の腫瘍内投与における  
特徴と問題点

樹状細胞は原則として血液中には存在せず、

定まっていました。そのため、治療期間が長くなるにつれ細胞投与も頻回になり、結果、治療費用も高額になるといふ難点がありました。

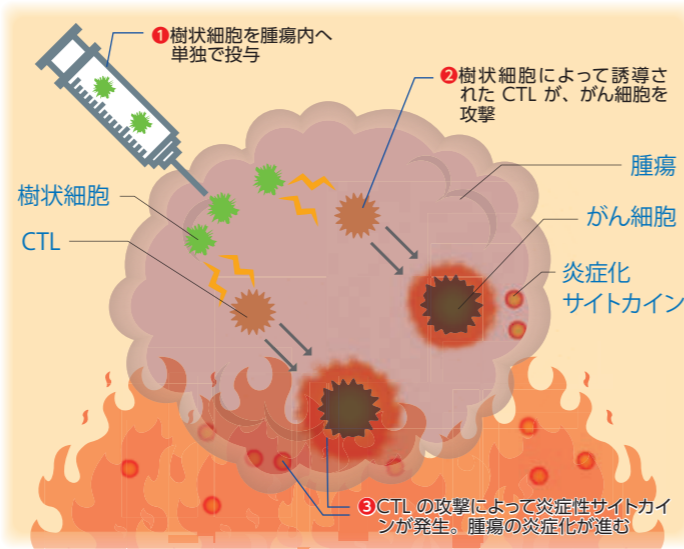
この難点を克服するため、腫瘍の炎症化を予防し、がんの進行を抑制する新たな方法として、炎症性サイトカインの抗体薬を併用する方法を開発しました。それがHITV療法の新しい施術法——プロトコールドです。

プロトコールドにより、放射線治療や抗がん剤治療の制約(施術回数・副作用など)を受けずに、腫瘍のワクチン化による局所制御が可能となりました。同時に、治療を簡素化することにより、費用を軽減することにも成功しました。

HITV療法治療中の腫瘍の動きはバリエーションに富み、今回報告した症例(次頁)でも、放射線治療後に一部の腫瘍が増大が見られました。当件は、生検でサイトカインを調べるとIL-6が陽性化していたので、その抗体薬を腫瘍内投与することにより、順調に縮小へ向かいました。

プロトコールドは、確定的な理論を発表するには、今のところ症例数が十分ではありません。しかし、臨床では、腫瘍の病巣数が10カ以内であれば、良好な結果が期待できるでしょう。

図2 樹状細胞投与による腫瘍の炎症化



HITV療法——  
プロトコールA・BとDの違い

樹状細胞が腫瘍内に導入されたあとの炎症化を防ぐために、放射線治療や抗がん剤治療を併用するのが、HITV療法の初期におけるプロトコール——すなわち、プロトコールA、及びプロトコールB(表1)です。

プロトコールA、Bは樹状細胞の投与時期が、放射線治療の前後1週間、抗がん剤治療の各コース前1週間などというように、厳格に

表1 プロトコールA・BとDの違い

	施術方法	施術制限
プロトコールA・B	樹状細胞投与に併せ 抗がん剤・放射線治療を行う 	樹状細胞の投与が—— ・放射線治療の前後1週間 ・抗がん剤治療各コースの1週間前
プロトコールD	樹状細胞に加え 炎症性サイトカインの抗体薬を投与する 	樹状細胞の投与は、 原則、1回の治療で終了 1回でOK! 

\*プロトコールCは療法後の再発予防のための療法

※3 炎症性サイトカイン:炎症反応を促進する働きを持つサイトカイン(主に免疫系細胞から分泌されるタンパク質で、細胞間の情報伝達を担う)。TNF- $\alpha$ やIL-6など。一方でIL-10やTGF- $\beta$ のような炎症症状を抑制する働きを持つサイトカインもある

※4 プロトコール:プロトコール(protocol)とは、あらかじめ定められている規定、手順、試験・治療計画などのこと。臨床研究実施計画書ともいう

※5 抗体薬:抗体とは、体内に入ってきた病原体などの異物を排除するために働くタンパク質のこと。この抗体を精製したり、あるいは人工的に合成したりしてできた薬を抗体薬という

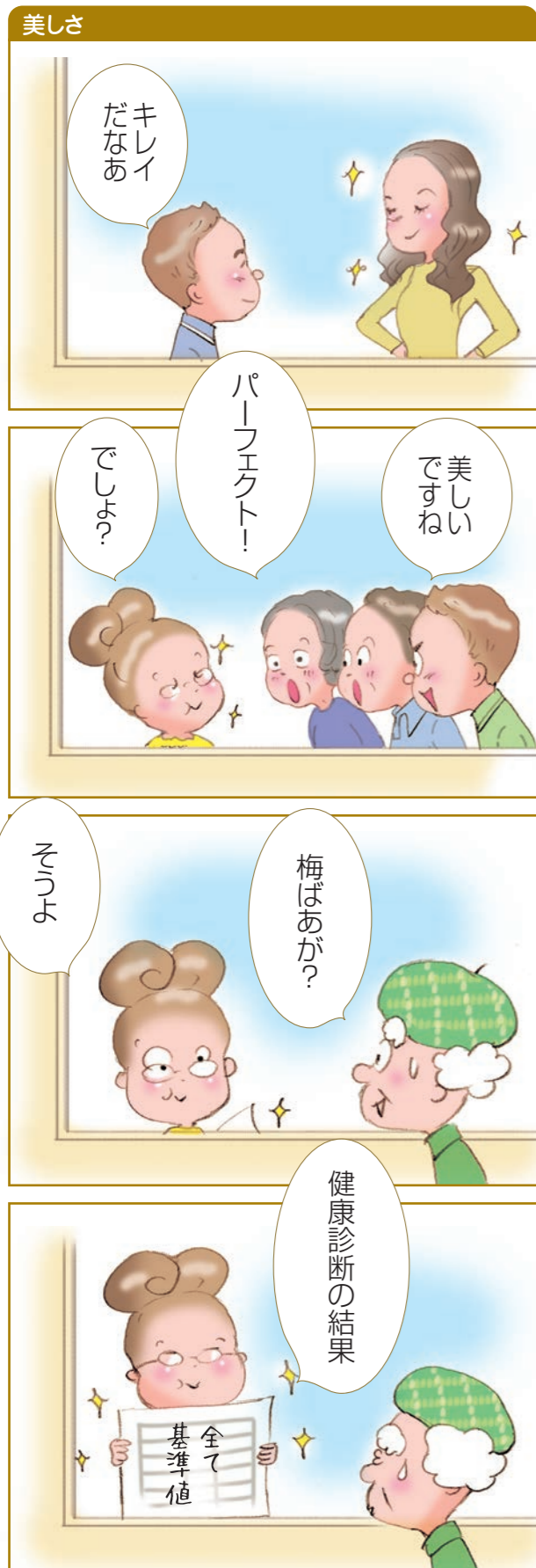
※1 ラジオ波治療:ラジオ波電極針を直接腫瘍に穿刺し、この電極周囲に発生する熱エネルギーにより、腫瘍と周辺を熱凝固壊死(がん細胞の死滅)させることを目的とした治療法。主に肝臓がん用いられる

※2 凍結治療:腫瘍に特殊な針を刺し、針の先端を超低温にすることでがん細胞を凍らせ、細胞膜を破壊して壊死させることを目的とした治療法。高齢や持病などにより手術が難しい場合に実施されることがある



小林 裕美子

マンガ家/イラストレーター  
東京造形大学・デザイン学科卒業。イラストレーターとして、実用書や児童書、雑誌、WEB媒体、新聞等に挿絵やマンガを描いている。『美大デビュー』（ポプラ社）、『もち・ぼち』（徳間書店）、『親を、どうする?』（実業之日本社）、『私、産めるのかな?』（河出書房新社）、『親が倒れた!桜井さんちの場合』（新潮社）、『産まなくてもいいですか?』（幻冬舎）等、著書多数。



HITV療法「プロトコルD」——症例報告

40代女性

診断: 右乳がん放射線治療後再発、肺、骨及び多発性肝転移

病理診断: 浸潤性乳管がん (Invasive ductal carcinoma)

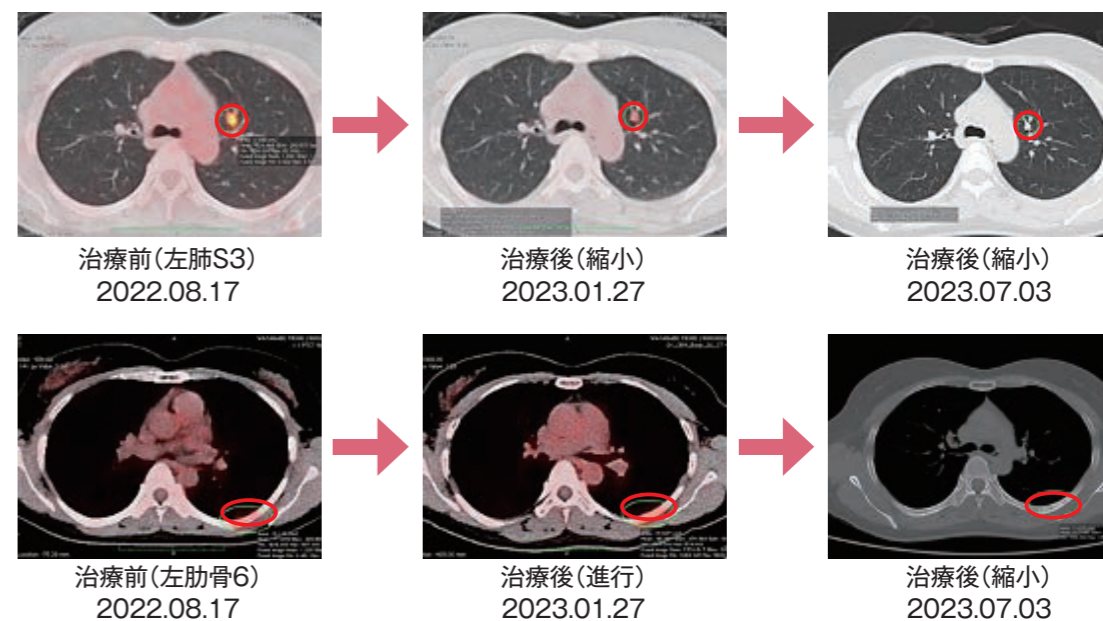
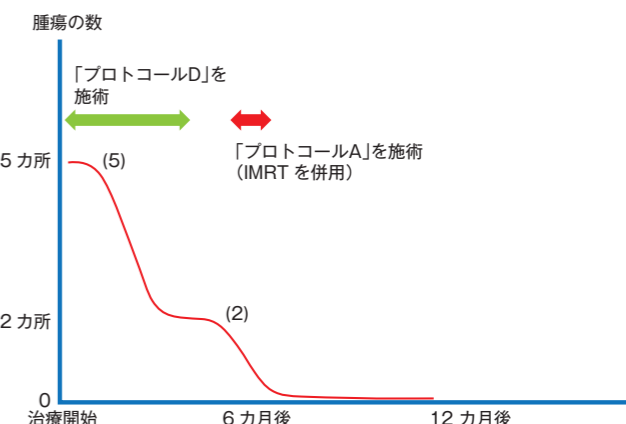
病期: 再発

- |          |                                 |         |  |
|----------|---------------------------------|---------|--|
| 2020年7月  | 不妊治療でEstrogen製剤服用               | 2023年1月 | PET-CT評価: 左肺S3, 肝S5, S6縮小, 左肋骨進行             |
| 2021年10月 | 右乳がん診断 (第II期)                   | 2023年2月 | Modified Protocol A: IMRT 40Gy/5Fr/5D (左肋骨6) |
| 2021年12月 | 放射線治療                           | 2023年3月 | 左肋骨6と左肺S3に樹状細胞投与                             |
| 2022年6月  | PET-CTにて左肺S3, 左肋骨6×2, 肝S5, S6転移 | 2023年7月 | CT検査にて経過良好                                   |
| 2022年7月  | Apheresis                       |         |  |
| 2022年8月  | Protocol D: 上記5カ所へ樹状細胞投与        |         |  |
| 2022年11月 | 肝S6, 左肋骨へ樹状細胞追加投与               |         |  |

●臨床経過

不妊治療でホルモン治療を行っていましたが、2021年右乳がんが発症し、ご本人の希望にて放射線治療を受けました。6カ月後のPET-CTにて肺、肝臓、骨へ計5カ所の転移がわかり、8月に樹状細胞の投与を行いました。その後、2023年1月のPET-CT評価では、左第6肋骨2カ所への転移を除き、縮小傾向を認めました。2月に肋骨部位へ放射線治療を実施しました。7月のCT検査では、全ての病巣は良好に経過しており、新しい病巣も発見されていません。

過去のプロトコル (A・B) では標準治療との併用が必須でしたが、プロトコルDではPD-L1抗体や炎症性サイトカイン抗体との併用で、標準治療との直接的な併用はなくなりました。そのため、免疫細胞のみの臨床効果となり、腫瘍縮小には多少時間を要しますが、副作用がない点と、プロトコルの簡素化により、細胞投与を頻回に行う必要がなくなり、大幅に費用負担を軽減することが可能になりました。





「培養上清液疼痛治療」+「スポーツセラピー」で

# “痛み”のない、 動ける身体をつくる!!

この秋、ICVS Tokyo Clinic V2は、新しい治療プログラムをスタートさせます。従来の「幹細胞培養上清液<sup>\*1</sup>による疼痛治療（以下、培養上清液疼痛治療）」に「スポーツセラピー」を組み合わせることで、痛みの再発を防ぎ、滑らかな動きを回復させるという本プログラム。どのような内容になるのか？ ICVS Tokyo Clinic V2院長の日下康子先生と、スポーツセラピーを担当されるアスレティックトレーナー・高橋昌之氏にお話を伺いました。

疼痛治療後に残る鈍い痛み、  
ぶり返す痛みは、  
身体のアンバランスが原因!?



—早速ですが、本プログラムは、培養上清液疼痛治療後に、高橋さんのスポーツセラピーを受けるとい流れになるそうですね。

日下先生「当院では、変形性関節症や椎間板ヘルニア、スポーツ障害など、さまざまな疾患による疼痛に対して、幹細胞培養上清液を用いた疼痛治療を行っています。

ただ、培養上清液疼痛治療で痛みが改善しても、日常生活のなかで、また痛みがぶり返すといったこともあります。

画像検査などで、局所的な原因（骨折など）



ICVS Tokyo Clinic V2 院長  
日下 康子 (くさか やすこ)

が明らか場合は別ですが、身体や動作のアンバランスが原因で、習慣的に蓄積された痛みというのは、再発しやすかったり、鈍い痛みが残ってしまったりするんですね。

そこで、培養上清液疼痛治療とれるだけの痛みはとって、蓄積された痛みはスポーツセラピーで治す、あるいは再発予防をしておくというのが、このプログラムの基本的な流れになります」

—ひどい痛みがとれたらそれで終わり、ではないということですね。培養上清液疼痛治療の効果を後押しすると同時に、効果を持続させるスポーツセラピーとは、どのような内容になるのでしょうか？

高橋氏「ひとりで説明するのは、なかなか難しいので、腰痛を例にお話ししましょう。

これは私の甥っ子の話になるのですが、彼はラグビーをやっていて、腰が痛いと言って私のところに来ました。彼曰く、レントゲンも撮ったし、大丈夫だと言われていると。一方、母親である姉は、レントゲンだけではわからない、MRIもやらなければという。腰痛の原因を、筋肉が損傷しているとか、骨にダメージがあるとか——部分的なことだと考えているんですね。

しかし、よく診てみると、彼の場合はも



アスレティックトレーナー (ATC)  
高橋 昌之 (たかはし まさゆき)

である私が医学面から、トレーナーである高橋さんが身体機能面から診断、治療を行います」

痛みがあると動けない……だから、  
培養上清液疼痛治療でひどい痛みをとり、  
スポーツセラピーで、緩める、鍛える。



—施術の流れを、もう少し具体的に教えてください。

日下先生「このプログラムには、大きく分けて4つのステップがあります。

1つ目のステップは、医師による診断・評価  
そして、培養上清液疼痛治療です。最初に必

ず画像検査などで局所（痛みのある部分）に異常がないかどうかを調べます。この段階で骨や筋肉などの損傷が見つかった場合は、整形外科領域の治療が必要となりますが、ほとんどの患者さんは画像上では異常が発見できません。

培養上清液疼痛治療により、ある程度痛みがとれたら、スポーツセラピーで過剰に使っている部位のストレスを取り除きます。

これが2つ目のステップです。

3つ目のステップでは、痛みにつながる身体の不均衡や、筋肉の弱い部分を補正していきます。

4つ目のステップは医師による再評価。問題を再確認します。

これらのステップは、単純な一方通行ではありません。再評価をして終わりではなく、スポーツセラピーを続けていただくことで、培養上清液疼痛治療の効果を維持し、より滑らかな動きを回復させることが可能になります」

—スポーツセラピーは、トレーニングが中心になるのでしょうか？

高橋氏「スポーツセラピーは、1枠70分程度を予定していますが、70分ぶつ通しでトレーニング、ということはありませんからご安心を(笑)。

ともと扁平足気味で、姿勢のアンバランスによるかすかな痛みの蓄積が5年、10年積み重なっていたのです。結果、足のストレスが耐えがたい腰痛となって出てきた。

原因に辿り着いたら、それを取り除くようにトレーニングしていくことが大切です。このケースでは、扁平足による姿勢のアンバランスを矯正する——。結果、腰への負担が減少し、腰痛が解消するわけです。

私が担当するスポーツセラピーでは、姿勢の不均衡や筋肉の使い方の悪習慣などを修正することで、蓄積された悪因を解消し、痛みを取り除くことを目指しています」

—腰が痛いのには、原因は足にあった。このよ  
うなことは、身体のほかの部分でもあることな  
のでしょうか？

日下先生「たとえば、慢性頭痛は脳の病気ではなく、多くが肩こりから来ています。痛  
いのは頭だけれど、原因は首や肩周りなどに  
ある——ということですよ。

痛みや違和感がある部分を、無意識にカ  
バーしようとすることで、さらに身体のパラ  
ンスも崩れてしまう……。ですから、患者さ  
んを診る場合、本来は主訴の部位だけでなく、  
身体全体を診察する必要があるわけです。  
当クリニックのスポーツセラピーは、医師

\*1 幹細胞培養上清液：体内の幹細胞を培養し、その培養液から幹細胞を取り出して滅菌などの各種処理を施した液体（上澄み液）のこと。老化などによって衰えた細胞の回復などの効果が期待できる

スポーツセラピー  
症例 1

# 腰痛

膝の痛みを訴えているが、  
原因は本当に腰にあるのだろうか？



## スポーツセラピーで 身体のバランスを チェックしよう！

下半身の回旋を調べたところ、どうやら右回旋が弱いことが判明。下半身を右に捻るときに、本来ならば左脚の腿裏で安定したいのだが、それが出来ないため、左腰の筋肉が思い切り頑張って耐えている。腰痛の原因は、左腿裏の筋肉が怠けているせいだった。よって、鍛えるべきは左腿裏。

肩にどんな負担が生じているか、  
肩と腕の可動域がどれだけあるかを確認してみる。

スポーツセラピー  
症例 2

# 肩こり

肩こりがあるのならば、肩の後ろ（背中側）ではなく、前の方（胸側）をしっかり緩める。胸が正面を向くようになるので、姿勢が安定しやすくなり、肩の周りの筋肉を余計に使わなくてすむ。慢性頭痛でお悩みの場合、肩こりと併せてよくなるかもしれない。



慢性頭痛の検査の1つが目の検査。  
ペンなどを見つめてもらい、徐々に近づける。  
像がぼやけたら、  
そこから先が目の筋肉を酷使する範囲。

スポーツセラピー  
症例 3

# 慢性頭痛

目とペンの間隔が一定の距離を越え、焦点を合わせるために、目の筋肉を酷使したり、首や身体をのけ反らすことになる。日常生活ではこのような状況がくり返されており、慢性頭痛の原因になっている場合が多い。そのため、慢性頭痛では、まずは目のエクササイズから始めるとよい。



患者さんの状態、体力、年齢、目標などに  
応じて、オーダーメイドで提案・施術をさせ  
ていただきます。

筋肉には怠けている筋肉もあれば、頑張り  
過ぎていて筋肉もあります。両者のバランス  
をとってあげれば、身体的な協調性が生まれ、  
より動ける身体、痛みのない身体に仕上げて  
いくことができます。

ただ、痛みや不調の原因が5年、10年も前  
から始まっているのだとしたら、それを1日  
で治すというのは、さすがに無理でしょう。

スポーツセラピーでは、自宅でこれをやっ  
ていくといいですよ、というメニューもお教  
えするので、患者さんご自身でも実践してい  
ただきたいと思います」

**日下先生**「一時的によくなっても、アンバラ  
ンスになる生活に戻ってしまうと、痛みは  
また出てくるんですね。

スポーツセラピーは、培養上清液疼痛治療  
と同じ診察室で受けることができます。特別  
なウェアや道具もありません。せっかくな  
ら培養上清液疼痛治療に来てくださったので  
から、できるだけ長期間、良い状態を維持し  
ていただきたいと思います」

——**スポーツセラピー**を、**医師と連携して施  
術してもらえると**いうのは、**心強い**ですね。

**そう**いった意味でも、**本プログラムは大変画  
期的な試みだ**と思います。

**日下先生**「大きな病院では、整形外科や脳外  
科がリハビリ科と連携するケースは少なくあ  
りませんが、1人の患者さんに対して、医師  
と運動の専門家が協働するという事は、な  
かなかないと思います。その点、当院は小回  
りが利くというか……個々の患者さんに対し  
て、情報を共有しながら、じっくり相談して、  
治療や施術を進めることができます」



**痛みのない日常、やりたいことを  
思いっきりやれる人生を目指しましょう！**

——**最後にこのプログラムに**かける思い、**患者  
さんへのメッセージ**などありましたら、**お聞か  
せください。**

**日下先生**「実は私自身も、高橋トレーナーに長  
年お世話になってるんです。靭帯損傷はあ  
るし、軟骨はすり減っているし、膝はもう  
全然ダメなんです。それでも趣味の登山、  
それも結構ハードな登山を続けられているん  
ですね。  
体のバランスを変えて、フォーム矯正をし  
て、膝に負担のかからないような登り方、降  
り方をずっと辛抱強く教えてくださって……。

痛みがあると登山を止めていく方が多いので  
すけど、私は高橋トレーナーのお陰で、今も  
楽しく登山を続けられています。

「痛い」というのは、体が発する異常のサ  
インです。原因はどこにあるのかしっかり探  
して、すみやかに痛みのない日常に戻してい  
かねばなりません」

**高橋氏**「痛みによって日々の暮らしがづらいも  
のになってしまったり、生活の幅が制限されて  
しまったりするのは、とてももったいないと思  
います。痛みを抱えていらつしやる方々には、  
痛みを軽くして、いきいきとした明るい毎日  
を取り戻していただきたいと思っています」

——**お二人の熱意、よく伝わりました。1人  
も多くの方々に、この治療プログラムを知って  
もらい、痛みのない毎日、やりたいことができ  
る人生を送っていただきたいですね。本日はあ  
りがとうございました。**

— Information —

ここで紹介した  
治療プログラムの詳細は、  
ICVS Tokyo Clinic V2  
ホームページで  
ご確認ください。

ICVS Tokyo Clinic V2  
ホームページ  
<https://www.icvs-v2.org>

第2特集

免疫療法のハブ・クリニック  
『HASUMI免疫クリニック』  
の治療メニュー

図1 「ハスミワクチン」のメリット



**D** 副作用がほとんどありません。まれに、免疫反応による一過性の発熱、注射部位の発赤が見られる場合があります。「40歳を過ぎたころから、免疫力の低下が目立ってくるので、ハスミワクチンによる健康維持をおすすめします。がんの診断を受けた場合は、手術後最低5年間再発予防としてご

「治療効果と再発予防効果を併せ持つハスミワクチンは、がんのステージ0〜IVまで、まんべんなく効果を発揮します。特に有用なのは、ステージI〜IIの手術後の再発予防です。

寛解へ向かう総合的な治療計画を立案する

「治療効果と再発予防効果を併せ持つハスミワクチンは、がんのステージ0〜IVまで、まんべんなく効果を発揮します。特に有用なのは、ステージI〜IIの手術後の再発予防です。

「preHITV療法」「NK細胞療法」の二つが主軸です。ハスミワクチンは、いうまでもなく珠光会グループの礎を築いた万能型の「がんワクチン」。preHITV療法は、HITV療法の技術を応用して開発——2016年より臨床が開始されたがんの予防セラピー。NK細胞療法はベーシックな免疫療法ではありますが、最近中国などのアジア圏で需要が高まっています」(渋谷氏)

谷氏) ハスミワクチンが万能型がんワクチンといわれる所以は、がんの治療効果のほか、図1のようにさまざまなメリットがあるからです。

ホテルニューオータニガーデンコート1Fにある『HASUMI免疫クリニック』は、珠光会グループの歴史そのものといえるでしょう。前身となる「珠光会診療所」が開院したのは1958年——。日本最初の“がんワクチン”といっても過言ではない「ハスミワクチン」を用い、ひとりでも多くの患者様をお救いしたいという、故蓮見喜一郎博士の意思が結実した施設でした。

喜一郎博士の願いはご子息の蓮見賢一郎先生(米国法人蓮見国際研究財団理事長)に受け継がれ、免疫療法の粋を集めた「HITV療法<sup>※1</sup>」の専門施設として『ICVS東京クリニック』が開院したのは2008年。そして、珠光会診療所はさらなるバージョンアップを目指し、HASUMI免疫クリニックとして2021年に再スタートを切ったのです。

今回の第2特集は、HASUMI免疫クリニックの多彩な治療メニューを、同クリニック事務長の渋谷大介氏の解説でご案内します。



「HASUMI免疫クリニック」を一言で表現するならば、免疫療法を核としたハブ・クリニック(clinic hub)といえるのではないのでしょうか。ハブとは情報や流通などの「結節点」という意味。「ハブ空港」などのように用いられませんが、さまざまな流動が一点を介して、さらにさまざまな方向へ進展していく、その一点を指す言葉です。

「HASUMI免疫クリニックが免疫療法のハブ・クリニックである理由は、主に二つあります。ひとつは多様な治療、もうひとつが多彩な患者層です」

そう答えてくれたのは、HASUMI免疫クリニックの渋谷大介事務長です。

「HASUMI免疫クリニックの治療は「ハスミワクチン」

※1 HITV療法：米国法人蓮見国際研究財団理事長蓮見賢一郎先生が開発した次世代型免疫療法。がんのステージIV、進行がん、再発がんに効果を発揮する。3頁参照

「H A S U M I 免疫クリニックは、がんの治療・予防に関する多様な治療法を有しています。各治療法は単独で作用することほもちろん、組み合わせることでも一層効果を発揮します。ですので、自分の現在の病状にはどんな治療法が功を奏するか、また、ステージが移動したらどんな治療法で対処するのがベストか」等々、寛解へ向かうための総合的な『治療計画』を医師と一緒にしっかりと立案することが重要になるわけです」(渋谷氏)

H A S U M I 免疫クリニックは、医師も看護師も経験豊富なベテランぞろいなので、患者様に適したオーダーメイドの『治療計画』を速やかに立案してくれるに違いありません。



パッチ型 M-Adjuvant (エム・アジュバント)

**免疫力を向上させ、健康を増進させる治療メニュー**



細胞を体外で大量に増やし、再び体内に戻すという仕組みです(図3)。高い抗腫瘍効果も期待できますので、ハスミワクチンと併用することも、病状安定のためには有用です。

「H A S U M I 免疫クリニックは、がんの治療・予防に関する多様な治療法を有しています。各治療法は単独で作用することほもちろん、組み合わせることでも一層効果を発揮します。ですので、自分の現在の病状にはどんな治療法が功を奏するか、また、ステージが移動したらどんな治療法で対処するのがベストか」等々、寛解へ向かうための総合的な『治療計画』を医師と一緒にしっかりと立案することが重要になるわけです」(渋谷氏)

H A S U M I 免疫クリニックには、アジュバント療法」というメニューもあります。アジュバント(Adjuvant)とは、薬物の効果を高めたり補助したりするために用いられる物質のこと。ワクチンに添加することで、効果(免疫原性)を向上させる働きがあります。特にハスミワクチンのために開発されたアジュバントは、高い性能を保持しており、この物質を用いて、がんの予防に併せて健康増進、さらにアンチエイジングを実現させる——というのが、アジュバント療法のコンセプトです。

「アジュバント療法は、体内の免疫システムを常に若々しく保つ効果が期待できます。具体的なメニューは、パッチ型の『M-Adjuvant (エム・アジュバント)』、飲むタイプの『CHORDA (ホルダ・16頁参照)』、点鼻薬スプレーの3種類です」(渋谷氏)

M-Adjuvant は、アジュバント成分を浸透させたパッチ剤を皮膚に貼ることで、皮下組織に常在する樹状細胞を刺激し、免疫力の活性化を促す仕組み——。

CHORDA は、ハスミワクチンをベースに開発された経口用アジュバント。ハスミワクチンと併用すれば免疫力を一層活性化させる効果が期待できます。

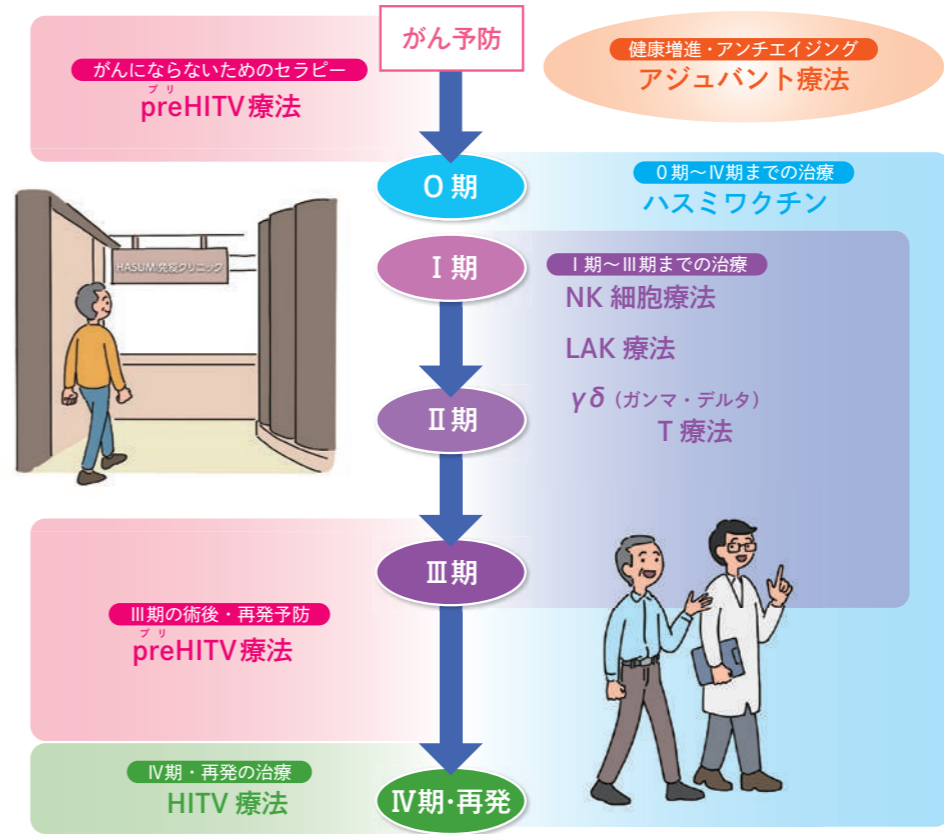
点鼻薬スプレーは、アジュバントを主成分とした鼻炎用の点鼻薬。アレルギー性鼻炎、咽喉炎、花粉症などに効果が見込まれます。

「冒頭申し上げたように、H A S U M I 免疫クリニックには、多様な治療メニューがそろっています。患者様は、ご自分の病状に合わせて各メニューを使い分けるところにより、常に良好なコンディションを保つことが期待できます。また、がんと診断された場合は、進行度によって、さまざまな治療方法のご提案が可能です」(渋谷氏)

このように、健康な状態からがんのステージIVまで、多様な病状・病期の患者様がバリエーション豊富な治療にアクセスできる点が、他のクリニックには見られない H A S U M I 免疫クリニックの特長といえるでしょう。まさに、免疫療法のハブ・クリニックといえるのではないのでしょうか。

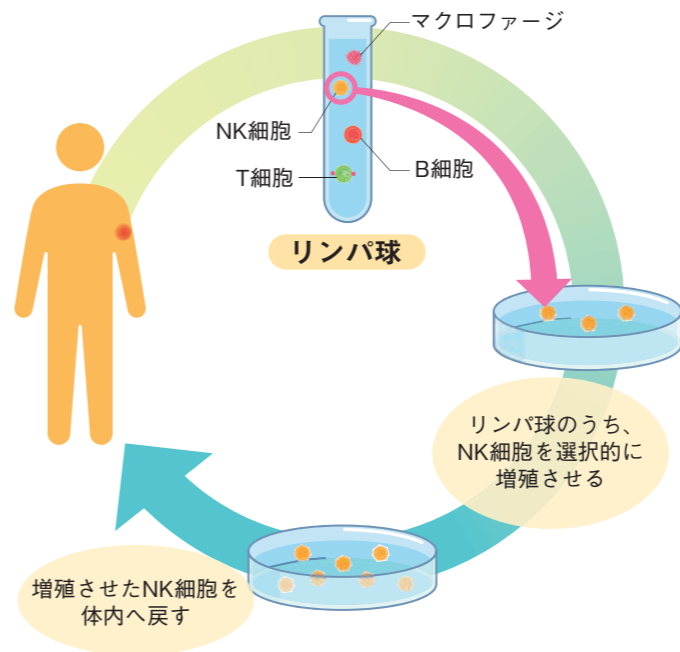
電話相談など、患者様に寄り添った便利なアテンドも充実しています。一層健康になりたい方、体調不良の方、がんの診断を受けた方は、一度連絡してみたいかがでしょうか。きっとあなたの悩みを解決する糸口が見つかるはずです。

図2 あらゆる病期をカバーする総合“治療戦略”ガイド



ステージIIIまで病状が進行した場合、preHITV療法が有効です。preHITV療法はHITV療法の技術を応用したがん予防セラピー。ステージIIIは再発の可能性が高いので、細胞療法です。ステージIV、及び再発がんには、HITV療法があります。

図3 NK細胞療法の仕組み



HITV療法は蓮見賢一郎先生によって開発された次世代型免疫療法——。数多くの治療実績を誇り、海外でも高い評価を受けています。

またステージIVにおいても、ハスミワクチンには有用です。治療効果は減退するものの、先ほど申し上げたQOL(生活の質)を改善させる効果が期待できます。病状を安定させるなど、メリットは少なくありません」(渋谷氏)

ステージI～IIIまでは、標準治療に免疫細胞療法を加えることで、一層の治療効果が期待できます。H A S U M I 免疫クリニックで施術できるのは、先ほど触れたNK細胞療法と「LAK療法」、「γδ(ガンマ・デルタ)T療法」です。そのなかでも主力のNK細胞療法は、自然免疫の代表的な免疫細胞であるNK(ナチュラルキラー)

※2 自然免疫：人間に本来備わっている免疫システム。自然免疫で防ぎきれなかった細菌やウイルスに対するために、後天的に得た免疫システムを獲得免疫という



# 珠光会通信

## Shukokai Communication

Information

## コルダ【飲むアジュバント】

### リニューアルのお知らせ

およそ30年にわたり、ハスミワクチンの補助剤として、また、「元気」を維持するための健康ドリンクとしてご愛用いただいておりますコルダ【飲むアジュバント】——。みなさまのご要望にお応えし、成分はそのまま容量を増量。さらに値下げを断行しましたので、お知らせいたします。



Renewal

#### コルダ

容量：10ml → **30ml**

価格：1,320円/本 → **1,100円/本**

主な成分：リン脂質、不飽和脂肪酸、  
ビタミンC、クエン酸、メントール

1箱6本入り：**6,600円**（税込）

人間の自己免疫力は、年齢を経るに従い低下します。自己免疫力が低下すると、体の不調を感じやすくなったり、いろいろな病気に罹りやすくなったりしますが、こうした健康状態の劣化を防ぐことがコルダの目的です。

これまでは、主にのどの炎症を抑えたり、上気道の免疫を高めたりするために飲用されていましたが、今回から容量を10mlから30mlに増量することで、従来の効果に加え、胃や十二指腸などの消化管免疫の向上も期待できるようになりました。

健康ドリンクとして毎日飲むもよし、ちょっと調子が悪いなあと感じたときに飲むもよし——。みなさまの健やかな毎日のパートナーとして、ぜひご活用ください。

コルダに関するお問い合わせ：[HASUMI 免疫クリニック] まで TEL：03-3239-8101

※コルダは HASUMI 免疫クリニックの院内処方薬です。

※リフレッシュガーグルが製造中止となりました。リフレッシュガーグルをお使いの方は今後コルダにお切り替えくださいますようお願いいたします。